



平和行政の取り組み

伊藤 敦博
(日本共産党)

質問 戦後70周年に当たり、本市の平和行政への取り組み姿勢と主な内容は。

答弁 戦後70年を迎え、戦争体験を語り継げる世代が減っています。昭和61年に核兵器廃絶平和都市宣言を制定し、若い世代への啓発や庁舎前広場に平和都市宣言が刻まれた平和モニュメントを移設し平和ゾーンを整備するなど、宣言の趣旨に沿った啓発活動に取り組んでいます。

質問 子どもたちへの平和教育の内容と取り組むべき課題は

答弁 小・中学校では社会科の内容と取り組むべき課題は、



高齢者への買い物支援 人口減少対策

依田 好明
(日本共産党)

質問 長野地区でモデル事業として始まった高齢者向け買い物支援タクシーチケット交付事業の仕組みは。

答弁 近所に商店がない、公共交通機関を利用しにくいなど、買い物に困難なひとり暮らしの高齢者がいる町内会にタクシーチケットを交付している。町内会が手配するボランティアが高齢者とタクシーに同乗し買い物に行く仕組みで、利用希望の取

の考えにより地域を切り捨てる懸念があるが、考えは。



改正道路交通法の概要 生活困窮者自立支援法

堀口 順
(市民クラブ)

質問 6月1日に施行された改正道路交通法の概要は。また学校での自転車の安全運転対策は。

答弁 自転車運転中に危険なルール違反を繰り返した者に講習の受講を義務づけており、14歳以上が対象となる。また本市では小・中・高校それぞれで交通安全指導を行っており、今後も交通安全教育の充実を図りたい。

質問 近年、高齢者や認知症の疑いのある人の交通事故が増加

て計画的にまちづくりを行わなければと考えている。高崎駅を中心とした地域と合併地域の中心核を公共交通で結び、利便性の高いまちづくりを進めたい。

しているが、高齢者ドライバーの安全確保のための対策は。

答弁 運転免許証を自主返納した高齢者の方にバス、タクシー利用券を贈呈しており、受付件数は増加傾向にある。また、高齢者講習のほか認知機能検査が



浜川トレーニングルーム設置器具の買い替え 駅構内への保育所等の設置

時田 裕之
(新風会)

質問 老朽化している浜川体育館、温水プール、トレーニングルームの設置器具の買い替えや新規導入の予定は。

答弁 体育館は完成後30年以上、温水プール、トレーニングルームは約20年経過しており、設置器具は安全に利用できるようメンテナンスを行っている。今後

もメンテナンスを行い、不具合のあるものは買い替えていく。

質問 通勤などで高崎駅を利用する、子どもを持つ保護者のために駅構内や駅周辺に保育所を設置する考えは。

答弁 高崎駅構内や駅に直結した保育施設はないが、周辺には

義務づけられている。

質問 4月1日に生活困窮者自立支援法が制定されたが、制度の概要と今後の取り組みは。

答弁 年収200万円以下の給与所得者や生活保護者の増加を背景に、生活保護者以外の生活困窮者の支援強化を目的に制定され、就労や自立相談支援、家賃の支給などを行うものである。生活困窮者の早期発見・支援がスムーズな自立へつながるため、制度周知に努めたい。また、制度を補完する本市に適した支援制度を考えていきたい。

数施設ある。利用者の増加が見込まれる駅周辺部には、保育所等緊急整備事業補助金を活用し施設整備を進める。子育て環境の拡充を図り保護者の利便性の向上と定住促進につなげたい。

質問 いじめ問題について相談などができる学校問題対策専門委員会の本市の設置状況は。

答弁 いじめ問題調査委員会として本市や各学校に設置している。平成25年6月のいじめ防止対策推進法の成立で、他市に先駆けていじめに悩む子どもや保護者の相談窓口として11月に設置し、問題の早期発見、解決に努めている。



平和都市宣言が刻まれたモニュメント



新ホールの送迎車用スペース 管理が行き届いていない私有地

逆瀬川 義久
(公明党)

質問 高崎文化芸術センター（仮称）の基本設計には、新ホールに送迎車の車寄せスペースがないようである。また、自転車置き場も少ないように感じるが、考えは。

答弁 施設配置の計画に難しいが2か所程度の車寄せが設けられるよう、道路管理者など関係者と協議を進めている。また、自転車駐車場も開館時までに対応すべく計画中である。

質問 高崎駅東口ペDESTリアンデッキを東口線の中央分離帯上に新ホールまで延ばす目的は。

答弁 本施設は公共交通を利用し来館される方が多いと予想し



里山元気再生事業 自転車のマナーアップへの課題

長壁 真樹
(市民クラブ)

質問 里山元気再生事業のこれまでの実績は。また、実施する上での課題や今後の取り組みは。

答弁 平成25年度は1000㎡以上の竹やぶを対象に20地区、3万9716㎡、26年度は竹やぶのほか2000㎡以上の里山林も対象とし、21地区、5万7196㎡を整備した。対象の竹やぶ等が管理放棄され所有者特定に時間を要するといった課題があるが、事業を継続し、有害

でおり、駅と直接結ぶことでよりスムーズで安全に誘導できると考える。また、東口線両側に計画する駐車場などへの接続も踏まえたものである。

質問 空き地や耕作放棄地など管理が行き届いていない私有地への苦情や解決件数は。解決が困難なのはどのようなケースか。

答弁 平成26年度の空き地の苦情は180件で、7割は除草等の対応で改善した。また、農地については51件の苦情のうち22件が解決した。未解決の事例としては、所有者が特定されない、破綻会社が所有、相続で代表者が特定されないなどである。

質問 鳥獣被害の軽減につなげたい。

答弁 緑の県民基金事業の申請状況と竹の粉碎機の利用方法は、昨年度分と合わせ、約18ヘクタールを地権者との調整等がまとまり次第、着手していく予定で、現在、場所の選定を進めている。また、粉碎機は烏川流域森林組合に貸与し、活用していただいている。

質問 自転車運転者のマナーアップを図るための課題は。また、

利用者のマナー違反報道のあった高チャリの現在の状況は。



認可地縁団体の状況 自転車の安全点検指導

林 恒徳
(市民クラブ)

質問 認可地縁団体とは、どのようなものか。また本市の状況は。

答弁 町内会名義で登記ができないことから生じる財産上の問題に対処するため、一定の区域に住所を有する者を構成員とする地縁による団体が法人格を取得し、不動産など資産を団体名義で登記できるようにしたもの

である。現在、本市には82の団体が認可地縁団体となっている。



高崎駅東口に発着するぐるりんバス

かったり、数日戻らないこともあるが、なくなった自転車は一台もない。使い勝手の良さを維持しながら、悪質な利用者対策を重点的に行っていく。

質問 高崎管内の自転車事故と小・中学生の事故の状況は。

答弁 平成26年中の高崎管内の自転車事故は、573件発生している。また、小・中学生の自転車事故は、小学生21人、中学生74人、計95人の報告があり、



災害に対する備え 駅東西を結ぶぐるりんを新保 克佳

(公明党)

質問 山名団地など観音山丘陵地域ではアクセス道路が1本のため道路が分断された場合孤立する懸念がある。解消の考えは。

答弁 観音山丘陵では地形や工事費の面で新たな道路整備は難しい。なお、危険箇所総点検で団地や山間部の道路沿線の土砂災害への点検を実施している。

質問 児童・生徒在校時に災害が発生し、地域の方が避難してきた場合、備蓄品は足りるのか。児童・生徒用の備蓄品の有無は。

答弁 災害時には、救援物資が届くとされる3日間を想定した量の備蓄品を防災コミュニケーションセンターから避難所に配布する

飛び出しや前方等不注意が全体の約6割であった。

質問 小・中学校では自転車の点検の必要性も含めた安全点検をどのように指導しているのか。

答弁 自転車点検は、保護者への依頼が中心であるが、整備不良も改正道路交通法の指導項目のため、効果的な方策を検討したい。また、自転車安全整備士の点検と賠償責任がセットになったTSマーク保険などへの加入促進や保護者向けのリーフレットの作成などで、事故防止に取り組みたい。

計画であり、児童・生徒専用の備蓄品はない。現在の計画は多数の児童が学校にとどまることを想定していないため、今後関係機関と連携を図り研究したい。

質問 市東部からぐるりんを利用する場合、駅東口に到着するが、西口方面に用事がある方も多い。駅東西を結ぶ路線を望む声は多数あるが、考えは。

答弁 市東部の路線は、路線距離や運行時間短縮のため平成22年に改正し、西口への利用者には都心循環線を利用していたが、折々検討していきたい。